

【研修内容】

○社会科授業研究 (授業者: 森 清成)
5校時 5年生 「フリマアプリから見る情報社会」

【研修の目的】

○教科構想に基づく、授業実践を行い、広島大学教授 棚橋健治先生と広島大学准教授 永田忠道先生より指導助言を頂くことで、教育技術の研鑽を行う。

【本時の目標】

フリマアプリのシステムについて学ぶことを通して、「信頼性のある情報の発信」と「信頼性のある情報の受信」について考え、情報のよりよい創り手や使い手として、必要な資質・能力について対話的に見出だすことができるようにする。

【単元計画】

- 第1次 「フリマアプリ」について知ろう・・・1時間
- 第2次 「フリマアプリ」の使い方について考えよう・・・3時間
- 第3次 情報社会のよりよい生き方について対話しよう・・・3時間 (本時 3/3時間)

【授業の実際】

フリマアプリを使う上で大切なキーワードについてグループで話し合い、共有し納得解を見出せるように働きかけた。そして、授業の終末には、「これってフリマアプリだけのこと？」と問いかけ、これからの社会を生きていく上で大切なことは何か考えるきっかけとなるようにした。

第7時「これからの社会を生きていく上で必要な力は？」場面の発話記録

【グループでキーワードを共有する】
C うそをつかない
C 相手意識
C 相手意識
C 相手意識
C 相手意識で相手を不快にさせない言葉づかい。
C きまりを守る
T これってフリマアプリだけのこと？
C いや、日常生活の事
C 社会にでたときにも
T 社会にでたときね。そうだね。
C 学校でも
T 学校でもね。
T メルカリの人たちは何が大切って言っていた？
C 安心安全
T 安心安全は誰のため？
C アプリを使う人のため
T ということは、会社を運営する上でも、日常生活の上でも「相手意識」や「言葉を大切にすること」や「うそをつかないこと」「きまりを守ること」は、どこでも大切だということだね。

これからの社会を生きていく上で必要な力を子どもたちは「相手意識」という言葉でまとめた。この「相手意識」は、子どもたちと共有し、学校生活を通して常に考えていくべきものであると概念化を図ることができた。つまり、情報社会において目に見えない「相手」のことをより深く考えながら、自己の行動を見つめながら生活するきっかけとすることができた。

【指導助言】

単元全体として、資質・能力ベースの授業に偏っているが、本時については「パンデミックにおけるフリマアプリでのマスクの高額転売」という社会現象を取り上げ、議論したことに価値がある。

「国がどのように対応を行ったのか」「企業はどのような対応をしたのか」また、「個人としてどのような行動をしていくべきなのか」と立場を変えながら、授業を構成していったことがよかった。

子どもたちの議論についても、自分の生活と結びつけながら、「フリマアプリ」をどのように活用していくことがこれからの情報社会を生きていく上で重要かということを積極的に考えられていたと評価を受けた。

本時の板書

2/1(水) フリマアプリを活用する上で大切なことは何だろうか

メルカリ 会社(フリマアプリ)はどのような対応をしたか?
＜2ヶ月後のニュース＞
マスクの販売を禁止した
売却せず違法行為をしてしわ寄せように
さまじく対応
＜安心・安全＞

政府(国)
罰則付きの禁止
仕入れ(価格より)高く売ると罰則
さまじく

出品者
正直に伝える
禁止されていること(盗み)を
くわしく伝える
素速く
さまじく守る

購入者
説明を見る
写真を見る
情報を集める
大切
うそをつかない
相手意識
もとどめ
言葉づかい

買った人が買えない状態
なぜこんなことが起ったのだろうか
コロナが増えた
買いしめ→マスクの売り切れ
買った人が増えた
高くても買う!!
マスクの価値の高さ

社会的マナー
1
2
3
4
5